東京 明治十七年十一月廿九日 土曜日 第八百廿六號 日曜日休刊 定價金三錢

敍任

○明治十七年十一月廿七日

任三等主稅官 非職富山縣大書記官從六位 深津無一

任參事院議官補 蒲生仙

任佐賀縣收稅長 佐賀縣一等屬 中島準

時事新報

左ノ一篇ハ十月三日倫敦發在英國特別通信員ヨリ寄送シ來リタルモノナリ 時事新報記者

伊太利王室ノ地位

豐浦生

伊太利ノ「ナープル」港ニ「コレラ」病流行シテ其病毒特ニ劇烈ナリトノ事ハ電信又新聞ニテ已ニ世人ノ聞知スル所ナルベケレバ苦頭々々敷ハ報知セズ死生幽明ノ理ハ洵ニ解シ難ク聽テ人間ノ最モ弱キ點ニシテ之ヲ物ニ譬ヘハ番兵ノナキ臺場ノ如ク一度ビ此處ヨリ攻メ入ラルヽ時ハ如何ナル勇者モ忽チ其氣ヲ失ヒ狼狽轉倒頭ヲ低レテ敵ニ降參スルヨリ外ニ手段アルベカラズ然ルニ「コレラ」病ハ恰モ下手ノ鐵砲ノ如ク何人ガ其玉ニ中テ死ニ至ル哉豫メ之ヲ知ルベカラズ色ノ青醒メテ頬肉ノ瘠ミタル者ヲ見レバ其肺病患者ナルヿヲ知ルベシト雖ヒ「コレラ」病ハ即時ニ來テ即時ニ其人ヲ斃シ肥滿ノ人ガ此病ニ斃ルレバ瘦セタル人モ亦之ニ斃レ老少ノ別ナク男女ノ差ナク強トモ云ハズ弱トモ云ハズ一切ノ衆生下手ノ鐵砲ニ圍マレタル姿ナレバ所謂人心洶々薄氷ヲ履ムノ思ヲナシ父母ニ別レ妻子ニ離レ今日ヲモ知ラズ明日ヲモ知ラザル身ノ上ナレバ平生ノ勇氣忽チ消散シテ俄カニ迷ヒノ念ヲ生シ信心ナキ者モ宮寺ニ參テ神佛ノ加護ヲ祈リ迷ヒ深キ者ハ神佛ノ木像ヲ持出シテ市中ヲ舁キ廻ハルナド文明國ノ伊太利人ニハ不似合ナル事ヲナシテ世人ノ嘲ヲ被ムルヿ尠ナカラズ然ルニ獨リ伊王「ハンベルト」陛下ハ一身ノ安危ヲモ顧ミルニ遑ナク自カラ病毒劇烈ノ「ナープル」港ニ到テ人民ノ苦惱ヲ慰メ或ハ病院ニ至テ親シク病者ヲ看護スル杯其仁慈至ラザル所ナク世人ノ此事ヲ傳ヘ聞ク者感激涕ヲ流サヽル者ナシ初メ王ノ未ダ「ナープル」ニ到ラザルニ先ダチ或ル所ノ貴族ヨリ秋季競馬ノ催アルニ付キ例年ノ通リ御臨幸アリタシト出願セシニ王親カラ筆ヲ執リテ電信案ヲ草シ之ニ答テ曰ク爾等ハ競馬ヲ催シテ例年ノ如ク樂ミ「ナープル」港ノ人民ハ「コレラ」ノ爲メニ非命ノ死ニ斃ル朕ハ寧ロ非命ノ死地ニ臨マザルベカラズト人誰レカ樂境ヲ避ケテ故ラニ死地ニ就クモノアランヤ今伊王ノ自カラ好ンテ死地ニ就クハ蓋シ不得止事情アレバナリ諺ニ曰ク虎穴ニ入ラザレバ虎子ヲ得ズト伊王ハ虎子ヲ得ント欲ス虎子ハ坐シテ致スベカラズ必ズヤ乳虎ノ怒ヲ冒シテ其穴ニ入リ我生命ヲ賭シテコレヲ爭ハザルベカラズ國王タルモ亦艱難ナルカナ抑モ伊太利國一統以來日尙淺ク王室ト人民トノ交情未ダ親密離レ難キノ場合ニ至ラズ或ハ民主政治ノ共和主義ヲ唱フル者アリ或ハ羅馬法王ノ法權ヲ舊ニ復シテ舊敎一統ノ世ノ中トナサンヿヲ欲スル者アリテ互ニ權ヲ爭ヒ勝ヲ制スルノ秋ナレバ「ハンベルト」王ト雖ヒ深宮ニ閑居宴樂ヲ事トスルノ遑ナク東西ニ奔走シテ民心ヲ收メザルベカラズ此度「ナープル」ノ惡病流行ハ恰モ民心ヲ籠絡スルノ好機會ナリト云フモ敢テ伊王ヲ誹ルノ言ニハアラザルベシ又彼ノ羅馬法王モ此機ヲ失フベカラズト爲シ乃チ廿萬圓ノ大金ヲ避病院ニ寄付シテ其費用ニ充テタリ蓋シ法王親カラ此病院ニ臨ミ病者ノ苦惱ヲ慰メントスルノ仁意アリナドノ世評モ亦頻ナリ其事ノ實否ハ未ダ之ヲ窺フニ由ナシト雖ヒ若シ此世評ヲシテ實說ナラシメバ必ズ天下ニ思ヒ寄ラザル一大成果ヲ生ジテ僧俗ノ關係ニ大ナル變動ヲ視ルヿアルベシ蓋シ今王ノ父「ビクトル、イマニユール」王全伊一統ノ後ハ宗敎ノ威勢頓ニ衰ヘ俗權日ニ益強ク代々ノ法王ハ俗權ノ專橫ヲ憤リ法體ノ幽暗ヲ歎キ悲メトモ更ニ其詮アルコトナク其「バチカン」法城ヲ出デ、市街ヲ通行スルヤ市童ノ爲メニ嘲ラレ武人ノ手ニ辱メラレ甚ダシキハ瓦石ヲ擲チ法体ヲ冒スナドソノ乱暴言語ニ絶シタル次第ナレバ遂ニ千八百七十年後ハ一度ビモ法城ノ外ニ出デタルコトナク常ニ城內ニ閉居シテ全ク世俗ノ交際ヲ絶チタルガ故ニ歐洲ノ舊敎信者ハ事ノ事情ヲモ詳ニセズ一圖ニ法王ハ伊太利政府ノ爲メニ其法城內ニ禁錮セラレタル者ト思ヒ誤リ其信仰益堅ク其尊敬愈高シト雖ヒ時勢ノ變遷人智ノ發達ハコレヲ止メントシテ止ムベカラズ政敎一致ノ說ハ往古人間質朴ノ時代ニ行ハルベク今日ノ如ク德行モ惡行モ智惠モ愚痴モ一層進步シテ人事其繁多ヲ極ムルノ時ニ當テ政敎一致ナドノ說ハ思ヒモ寄ラズ宗敎ノ趣意ニ拘泥シテ政理ヲ誤ルベカラズ俗政ニ關渉シテ宗敎ノ体ヲ汚スベカラズ凡ソ羅馬法王ノ威權最強ノ時ハ彼ノ十字軍ノ時代ニ在テ爾後新敎蔓延ノ爲メニ其宗權ノ大部分ヲ損シ君民同治ノ主義天下ニ行ハレテ全ク其俗政ノ權ヲ失ヒ遂ニハ其本據タル羅馬ノ政權ヲモ擧ゲテ悉ク伊國政府ノ爲メニ剝ガレ身ハ「バチカン」法城ノ內ニ閉居スルニ至リタリ去レバ羅馬法王ハ倘病メル獅子ノ如ク其全身ハ已ニ衰弱ヲ極ムト雖ヒ天下萬國舊敎ノ信者ニ乏シカラズ此信者ハ悉ク法王ヲ以テ其敎主ト崇メ政敎宗俗ノ別ナク一切ノ事物唯命コレ從フモノナレバ一度ビ手ヲ擧ゲテ其向フ所ヲ指定セバ伊太利全國ノ如キ一朝コレヲ法敎ノ權內ニ籠絡スルハ洵ニ易中ノ易ナルベシ蓋シ今日ニ至ルマデ法王ノ此策ニ出デザリシハ强チ自家ノ力ノ及バザルヲ恐レシニハアラデ時運一變必ズ自カラ今ノ政府ノ倒ルヽヿアルベシ人民自カラ今ノ政府ヲ厭フテ舊政ヲ慕フニ至ルベシ自カラ進デ他ヲ倒スハ他ノ自然ニ倒ルヽヲ待ツニ如カズトノ意味ニテ唯時運ノ變遷ニ任セテ其時機ノ至ルヲ待チ又一方ニハ從來羅馬ノ僧徒ハ曾テ伊國ノ政治ニ與リシコトナク其國會議員ヲ撰擧スルニモ他國ニ於テハ或ハ舊敎派ノ議員ナドヽテ一種ノ政黨ヲ組織スル者アレヒ伊太利ニ於テハ曾テ是等ノ事ナクシテ其僧徒ハ唯空シク時勢ノ變遷ヲ企望シ今ノ政府ノ日ニ益人望ヲ得テ容易ニ自カラ倒ルヽノ勢モ見エザルニ當惑ノ折柄偶然ニモ近頃白耳義ナドニテハ舊敎派大ニ政治社會ニ勝利ヲ制シテ其內閣員ノ如キ悉ク舊敎ノ信者ニシテ歐羅巴洲中稍々舊敎ノ運動スルノ勢ナレバ時コソ好ケレト法王モ漸ク意ヲ決シテ舊來ノ閉居主義ヲ放却シテ進取主義ニ改メ俗權ノ專橫ニ敵セントスル者ノ如シ全伊一統以來日尙淺ク民情未ダ全ク舊ヲ忘レザルノ今日ニ際シ俄然羅馬僧徒ノ起テ其政權ヲ爭フニ至ラバ時務益困難ナルベシ且伊太利ハ日墺ノ如キ專制家族ノ國ニ接シテ獨リ自由立憲ノ政体ヲ立ツルガ故ニ彼ノ「ビスマルク」公ノ如キハ常ニ之ヲ以テ目ノ上ノ瘤ノ如ク思ヒ其日耳曼帝國ノ勢アルニモ拘ハラズ成ルベク之ヲ中央歐羅巴ノ連合ヨリ離隔センヿヲ欲シ已ニ過般日、墺、露三帝會合ノ時ニモ之ニ參坐スルヲ許サヾリシハ其意ノアル所推シテ知ルベシ伊國ノ如キ維新建國ノ當坐ニ在テ如斯內外ニ事多キハ其國步困難ナリト云フベシ

佛淸事件

○臺灣近報 臺灣の生蕃中には近頃支那兵に加はり佛兵と戰はんとするものあり○近頃佛國商人が牛羊薯等を船に載せて香港より雞籠に至り同處に市店を開き右等の物品を販賣せんとをクルベー提督に願出たるに提督は之を許したり○佛軍臺灣を封鎖したるに付き臺灣の諸港に住する外國人は本國と郵書往復の道を斷されて不便一方ならざるに付き佛提督は之を察し軍艦デ、スタン號に命して外國人に代り郵書の取次を爲さしむる事となしたり(上海館新聞)

○天津の兵備 目下天津に在りて李鴻章の麾下に屬する兵は四萬五千人あり又神機營兵の同地に屯駐するものも四萬乃至六萬ありと上海新聞に見ゆ又昨日の紙上に淸國にて日耳曼人九名を海軍に雇入れたる由を記せしが本月八日天津發の報には此度香港より天津に着したる汽船にて十三名の日耳曼人來着せり右は淸國政府にて雇入れたるものなるが此外尙四十二名程不日天津に到着する筈なりと聞く云々と見えたり

○雇外人の優遇 近頃上海の或漢字新聞に淸國が佛國に對せんとするには今日淸國の海陸軍に奉職する外國の志願兵を信切に取扱ひ外國の士官に軍艦司令官の權を與へて無學無識兵事を知らざる上官等の爲めに羈束せらるゝとなく其見込次第自由自在に働かしむるに如くはなし云々と論したるに同地の或西字新聞は之を評して此說甚だ善し唯淸國政府が之を用ると能はざるを奈何せん云々と論記せり

○廣東守將の病氣 佛淸難を搆へてより彭玉麟は廣東に在りて專ら防禦の策を講ずれ共兵餉兩ながら乏しく防務頗る困難なるより憂苦の餘りに疾を成し連日吐血して止まずと云ふ又廣東の守將中にて最も將略ありと稱せられたる鄧氏も亦病氣にて兵政を處理する能はざるよし

○淸將自殺 廣西提督陳朝綱なる人は前に北寧失守の科にて革職議處の命を被ぶり北京へ護送さるゝ事となりしかば陳氏は罪を畏れて其鄉里なる廣東三水縣にて毒藥を服し自殺したりと云ふ

○佛淸兩軍の負傷者 近頃新嘉坡より廈門に歸りたる人の話に其出立の際佛國の軍艦が兵士五百餘名を載せ來りて新嘉坡の病院に入院せしむるを見しが大半手を折り脚を斷ち又は頭を焦し額を爛したるもありと云へりと上海の新聞に見ゆ又先頃馬尾の戰に負傷したる支那兵は福州に在る西洋人の病院に送られて治療を受けしが上海居留の西洋貴婦人等は之を憫み支那人の古着等を集めて右等の負傷者に給與せしかば其後同病院より一書を送りて其厚意を謝したる由其書面に據れば馬尾の戰の後同病院にて治療を受けたる負傷者は都合六十五名にして內五名は既に死去し其餘は治療中なりと云ふ

○張佩綸 張佩綸が京官及び福建省の官吏より福州敗軍の事に付彈劾せられたる由は既に記載せしが尙聞く處に據れば左宗棠、楊昌濬、浙閩總督)の兩氏が現に上言を奉じて其彈劾を査覈すると以て淸廷にては二氏の回奏を待つ爲め交部議處の一節は未だ中に留めて發せずとの事なるが諸方よ
りの彈劾
免かれざる

○宮中祇候
七日宮中
○木戸氏の
濱へ着港す
漸く一昨廿
て新橋へ着
紳士に夫人
永田町の邸
○縣令歸任
縣したり
○檢事出京
日上京した
○出發 松
取調の爲め
せられ本日
○出張 內
北海道へ出
れも出張仰
○歸京 農
村福廣氏は
及沖繩縣等
に孰れも歸
○官衙併署
れ紙尾へ官
許等の諸公
の都合にて
○海軍辨級
の二箇所へ
○後備軍師
其任に當る
○攘夷の關
此程御察の
思召にて右
なるが同港
濱まで護送
見ゆ
○廣東總督
港テレグラ
ゴルドン將
してゴルドン
を致す可し
趣を表し廣
三番は小銃
○電報の相
載せしが其
日)關說たる
ルドン將軍は
聞に載せたる